

国際交流のひろば



「海外との研究交流事業」の取り組み紹介

本学の国際交流に係る基本方針に基づき、海外の大学等との研究交流を推進するため、「海外との研究交流事業」を行っています。今年度は2件の事業が採択されました。そのうちの1件で、11月にドイツのブランデンブルク工科大学で研究交流を行った教科教育・教科複合実践研究コース（芸術創造／音楽）の尾崎祐司教授の報告です。

2023年11月13日～16日にかけて、教職大学院「音楽教育実践演習」の受講者4人と、ブランデンブルク工科大学（ドイツ・コト布斯）、及びコト布斯市内の幼稚園・小学校・中等教育学校で音楽の授業を参観してきました。ブランデンブルク工科大学第4学部音楽部門とは2021年6月に大学間交流協定を締結していましたが、コロナ禍が明けてようやく学生間交流も可能となりました。

ブランデンブルク工科大学は学校の教員養成に限らず、音楽学校の教員も養成しています。そのため、参観したLehrprobe（日本の模擬授業・模擬レッスンに相当）では、授業担当の学生が、個人的にフルートを指導している小学生を大学の指導法の授業に招き、レッスンの様子を受講者に見せる内容でした。授業者は事前に子供の達成度や練習計画等を記載したカルテを配布し、レッスン修了後にそのカルテを参考に指導方法について批評しあう展開でした。また、高等学校3年生の音楽科の授業では、教師による発問や生徒の発言などから、教材曲をもとに音楽的に思考を深める授業を参観できました。



大学院修了留学生への記念品贈呈式

3月8日（金）13時から大会議室において、3月に大学院を修了する留学生に、学長から記念品が贈呈されました。

修了生代表として王暉さん（中国）が「初めて上越にきたとき、雪山を見て、寒さを感じましたが宿舎は暖房があるので暖かかった。上越は静かに勉強でき、地域の人は優しく、良い思い出がいっぱいあります。上教大の先生は授業だけでなく個別指導や進路相談にも丁寧に対応してくださいました。私たちは学習面だけでなく精神面でも大きく成長することができました。今後、帰国し必ず懐かしくなるとは思いますが、機会があれば必ず戻ります。私たちはこれからも「なりたい自分」に向かって一歩ずつ進んでいきます。」とお礼の言葉を述べました。



教員研修留学生および特別研究学生への修了証書授与式



3月8日(金) 13時15分から大会議室において、1年間本学で学んだ教員研修留学生4名(コロンビア、パキスタン、ブラジル、マラウイ)および半年間本学で学んだ特別研究学生1名(中国・哈爾濱師範大学協定校)に修了証書が授与されました。

学長からお祝いの言葉が述べられ、修了生は一人ずつ上越での思い出、本学での学びやお世話になった人々への感謝の言葉を述べました。

無事に修了式を迎え、それぞれほっとした様子で3月末に帰国されました。

令和5年度上越教育大学国際交流のつどい



3月8日(金) 17時から本学第一食堂において、令和5年度上越教育大学国際交流のつどいを開催しました。

この会は、上越市、上越国際交流協会、近郊のロータリークラブ、本学振興協力会など、日頃より本学の国際交流活動、また留学生に対し、ご支援をいただいている地域の方々と意見交換を行い、本学の国際交流に役立てるとともに相互の親睦を深めることを目的としています。

今回は5年ぶりに対面形式で実施することができました。遠方であったり、ご都合により来学が難しい方々や海外在住の修了生はWeb会議システムを利用し、参加しました。

会では、押木国際交流センター長による本学の国際交流の現状や留学生による1年間の活動報告、体験発表などがあり、懇談会ではご参加のみなさまからご意見をいただき、留学生による出身地の紹介を行うなど、交流を深める有意義な時間となりました。



外国人研究者 高巧艶准教授の紹介



本学海外協定大学である内蒙古民族大学の高巧艶准教授が令和7年2月28日まで本学に滞在します。専攻は声楽教育、受入れ担当教員は上野副学長です。

3月26日(火) 13時30分から、林学長、中山理事、上野副学長にご挨拶を行いました。林学長からは、以前に内蒙古民族大学を訪問された際の思い出についてお話があり、高准教授からは、上越はとても静かで自然が多く、勉学や研究活動に集中できる環境であるとの印象が聞かれ、終始和やかな懇談となりました。

発行・お問い合わせ先

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学 国際交流推進センター「国際交流のひろば」
Tel: 025-521-3665 (研究連携課 国際交流・地域連携チーム)